



『しんきんの絆』

NEWS LETTER

Vol.5

全国の信用金庫はお客様の“想い”とともに、
東日本大震災の被災地の復興を応援しています。



認定特定非営利活動法人 底上げ（宮城県気仙沼市）

地域コミュニティ・文化の再生事業

高校生の主体性を育む地域教育の実践

宮城県気仙沼市や南三陸町では、震災前から若者が首都圏に進学し、そのまま現地で就職してしまうケースが多く、Uターン就職者が少ない状況にある。また、震災後においても、復興計画やまちづくりに若者の声が反映される機会がなく、「震災後のまちを活気づけたい」「高校生も住みよいまちにしたい」「高校生もまちの一員として認められたい」という思いをもつ若者をサポートする場が不足している。

このプロジェクトでは、高校生が放課後に自由に集まり、地域内外の様々な人々と交流しながら、地域に目を向け、自分たちで課題解決につなげるまでの活動をサポートしている。さらに、地元を離れた学生たちが帰省のタイミングで継続して地元の活動に関わることができる仕組みづくりを行っている。



事業担当者の声



理事
成宮 崇史さん

地域の若者が地元の資源や課題に触れ、自ら考え、動いていくことは間違いなく地域の未来を照らす大きな力になると思っています。これからも若者の主体性の育成を通して、個人や地域の豊かさを願い活動を展開していきたいと思っています。

認定特定非営利活動法人 ふくしま30年プロジェクト（福島県福島市）

日常生活の再建事業

福島での生活の復興をめぐり、学び考える活動

福島県では、原発事故による被災地域での避難指示解除が進む一方、地域に戻る人、戻らない人、迷いのある人それぞれに寄り添うサポートが必要とされていることに加え、震災から6年半が経過するなかで、地域に戻ってきた人たちが不安や疑問を話しづらい雰囲気がある等の課題も生じている。

このプロジェクトでは、「福島に暮らす」住民の心に寄り添う活動を行う。具体的には、専門家と参加者がともに学びあうことで、日常生活の中の漠然とした不安や疑問を解消して日常生活の糧とする研修会や、音楽や映像の力を借りてクリエイターと対話をしながら心を癒す音楽・映像鑑賞会の開催、さらには、これらの活動を冊子にまとめ、参加できなかった人や県外支援者に伝えていく活動も行っている。



事業担当者の声



理事長
阿部 浩美さん

大規模な避難解除が行なわれたことで復興の進展が期待されていますが、積み残された課題があることも事実です。この課題解決のきっかけとなるよう、専門家を招いて勉強会を開催していますが、参加者の熱気もあり、時間が足りなくなることもしばしばです。

東日本大震災から6年半が経過しましたが、復興の差が目立つようになりました。地域に根差した取り組みを進める団体同士が連携して生活再建に取り組むこと、文化や伝統、震災を伝承していくこと、新たなコミュニティを構築していくこと等がますます重要になります。

本プロジェクトでは1年間の助成期間中、開始時の贈呈式・オリエンテーション、折り返し時点での中間情報交換会、そして完了報告会と、助成先の団体や関係者が顔を合わせる機会を複数回設け、参加者同士の情報交換、交流の場としています。同じテーマに取り組んでいる団体や、同じ地域で活動する団体の存在を知ること、その後のネットワークにつながる、全く異なる団体同士が情報交換の中で意気投合して事業連携を始めるなど、助成先同士の新たな絆ができたことが地域の復興の一助になれば幸いです。